

平成30年度 第2回いわき市保幼小連携協議会議事録

1. 開催日時

平成31年2月12日（火） 午後2時00分から午後3時00分

2. 開催場所

生涯学習プラザ 4階 中会議室

3. 出席者

(1) いわき市保幼小連携協議会委員（11名のうち8名出席）

齋藤政子委員、鈴木美枝子委員、宮内隆光委員、吉村昭一郎委員、上野由美子委員、安島久恵委員、高萩有子委員、高萩文克委員

(2) 事務局（10名）

こどもみらい部： 山田次長兼総合調整担当

こども支援課： 小島課長、中村主幹兼課長補佐、箱崎保育・教育係長、雨澤総括指導保育技師、阿部総括指導教諭、鯨岡主査、草野主事

総合教育センター： 渡邊教育支援室主任主査兼室長、大森淳学校教育課主任主査

4. 議事

(1) コアカリキュラムについて

(2) その他

5. 会議の運営について

(1) 会議開催形式

本日の会議を公開することについて、情報公開等の観点から特に支障が生じる事由がないことを確認した。

議事録の作成については、議事に直接関係する発言又は説明内容のみを記録し、委員名を記録しない「要点筆記方式」で作成することとした。

(2) 議事録署名人

議長の指名により、安島久恵委員、高萩文克委員の2名を選出した。

6. 発言内容

(1) コアカリキュラムについて（資料1）

発言者	発言内容
議長	「3 議事 (1) 保幼小連携コアカリキュラム案について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料に基づき説明（こども支援課：小島課長）
議長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば、発言願いたい。
A委員	<p>『幼児の姿』Ⅱ期「集団で遊ぶことの楽しさを知り、誘い合って遊んでいるが、意見のぶつかり合いが見られる」という表現について。</p> <p>子どもたちが、健全な発達をするうえで、当然の成長とは思いますが、「意見のぶつかり合い」は、マイナス要因に感じられる表現である。子どもたちは、トラブルの中から、様々なことを吸収して成長していくものであるため、トラブルが起きるのが、当然でふつうの健康な子どもたちの姿と分かる表現にしてほしい。</p>
事務局	<p>『幼児の姿』として表現すると、記載のとおりとなる。マイナス要因の意味合いで記載したわけではない。例えば、Ⅳ期は「就学への期待が高まり、生活や遊びに意欲的に取り組む子どももいれば、不安を感じている子どももいる」と記載しており、小学校入門期では「入学したという期待感ややる気が高まっている一方、環境の大幅な変化に戸惑い、不安感を持つ子どももいる」と記載している。子どもたちは、発達の段階によって、様々な育ち方をしているという意味で表記している。その姿を受け止めたうえで、次の『育てたい力』につなげていくという意味であり、特にマイナス要因という意味ではない。子どもたちの育ち方の実際として記載している。</p>
B委員	趣旨は理解したが、マイナスに感じてしまう部分がある。表現の仕方を工夫してもいいのではないか。
議長	『幼児の姿』とは「発達の姿」で、様々な面が見られるという意味である。発達段階の一つの姿として記載している。

事務局	貴重な意見として受け止める。
A委員	<p>様々な家庭があるため、「保護者支援」のキーワードが盛り込まれていることをうれしく思う。</p> <p>「子育ての思いを共有しながら、同じ目線で語り合い、共に育てる関係性を育む」について、具体的にどのようなイメージか？</p>
事務局	<p>様々な家庭があるということを、コアカリキュラム策定ワーキングチームや、いわき市保幼小連携協議会で共有してきた。ワーキングチームの中で、子育てをしていく「養育力」の低下について話題になり、保育者が、一時的に保護者の支援をするのではなく、それぞれの立場に合った形で、保護者の思いを汲み取って受け止め、子育てに対する思いをしっかりと聞いていくことが重要ではないか、という意見が多く出てきた。これが「子育ての思いを共有しながら」である。</p> <p>同じ目線で語り合うことは、子どもを真ん中に、共に育て、共に育ち、共に育て合うという視点で、共に同じ目線で語り合うという意味である。幼稚園教諭や保育士、保護者も、一緒に育ち、育て合う視点で、共に同じ目線で語り合うという内容である。</p> <p>様々な事件等の報道もあったことから、一方的な支援ではよくないとの思いを込めている。</p>
議長	<p>事件等の報道にあるように、様々な保護者がいる。保護者がそれぞれ持っている子育ての思い、子どもをよりよく育てたいとの思いを受け止めながら、あるいは一緒に共有しながら、というところを強調している。</p>
C委員	<p>『育てたい力』I期について、少し保育者目線が強いように感じる。「一人一人の心に寄り添いながら、保護者や友達への親しみを深め、遊びを楽しむ」とあるが、5歳児が一人一人の心に寄り添うのは難しいと思われる。他の部分と整合性を取り、次のような表現はどうか。</p> <p>「相手の思いを受け止め、保育者や友達への親しみを深め、遊びを楽しむ」</p> <p>子どもの姿を育てたいという視点で表現をした方が、保育者目線ではなく、子どもの視線に立った表現になるのではないか。</p>

議長	他のところは主語が子どもになっているが、Ⅰ期『育てたい力』のところだけ、主語が大人になっている。修正が必要と思われる。
事務局	意見を元にして、修正する。
議長	他に何か意見・質問があれば、発言願いたい。 ないようであれば、今の協議を踏まえた形で、軽微な変更及びとりまとめは、会長一任としてもよいか。
一同	異議なし。
議長	異議なしとのことで、コアカリキュラム案については、会長一任によりとりまとめる。

(2) その他（参考資料4）

発言者	発言内容
議長	「(2) その他について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料に基づき説明（こども支援課：小島課長）
議長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば、発言願いたい。何か意見・質問があれば、発言願いたい。
D委員	プログラムの策定が平成31年度内との予定について。平成30年度にコアカリキュラムを策定、平成31年度に実践例の収集・編纂とすると、一年間でどのくらいの実例が収集できるのか？ 平成31年度に実施された事例だけを収集するのか、それともそれ以前に取り組んでいる事例も含めて収集するのか？
事務局	小学校と保育所・幼稚園が連携できる環境にある施設に関しては、すでに独自に保幼小連携を進めてきている。 平成30年度にコアカリキュラムを策定してからスタートするという考えではなく、すでに始まっている事例については、さかのぼって、平成31年度作成予定の事例集に盛り込んでいく予定である。コアカリキュラムを活用できるような事例として整理していく。

	平成 31 年度に一度取りまとめを行うが、取り組みが広がれば、さらによい事例が出てくると考えられるため、収集・編纂は、継続・更新しながら実施していく方針である。
議長	プログラムの策定というより、事例集として発行していきたいということか？
事務局	事例を集めて、コアカリキュラムの柱に合わせて体系的に整理した形にして、事例集とコアカリキュラムをセットで示していくことで、プログラムとする考えである。
議長	それは、プログラムを示して完結させるという意味か？
事務局	そこで完結させるという意味ではない。事例を更新し、コアカリキュラムについても、時代によって変わるところも出てくると考えられるため、柔軟に対応していく。
議長	他に何か意見・質問があれば、発言願いたい。 特になければ、以上で、本日の議事のすべてを終了する。 以上をもって、私の本日の議長の任を解かせていただく。